会議議事録

事業名	平成２６年度 「職業実践専門課程」の推進を担う教員養成研修モデルの開発・実証
代表校	一般社団法人　全国専門学校教育研究会

会議名	第２回開発・実証委員会　第２回評価委員会　合同委員会
開催日時	平成２６年１０月２３日（木）　１２時００分～１４時００分
場所	グランドヒル市ヶ谷　東館 2F「琵琶」
出席者	①開発・実証委員会（３名） ・岡村慎一（専門学校ＹＩＣグループ） ・伊藤慎二郎（学校法人穴吹学園） ・龍澤　尚孝（学校法人龍澤学館） ②評価委員（２名） ・小野紘昭（一財）職業教育キャリア教育財団　啓明学園） ・芦澤（学校法人河原学園） ④事務局（２名） ・下島耕一（鹿児島情報ビジネス専門学校） ・花田香央理（鹿児島情報ビジネス専門学校） （計７名）
議題等	１）開会 ２）インストラクショナルデザイン分科会　概要説明と進捗報告（岡村より） ①これまでの分科会の内容【資料１参照】 ②職業実践専門課程と ID の関係について ・文科省より、単なる専門学校の教員養成研修とは違う「職業実践専門課程の教員研修」として最適であるかどうか、との指摘があった。 ⇒『社員教育に ID を導入している複数の実際の企業の事例を明らかにし、ID にのっとった授業を行うことにより、学生の企業が求める社会人像への移行を促進できる教員の養成』と目的を設定し、企業連携を図る。 情報系に限らずサービス系など、ID を使用した研修プログラムによる人材育成を行っている企業をモデルとして調査を進める方針。 ③企業連携の強化について【資料２参照】 →ID は目標を明確にして PDCA（ADDIE モデル）を回していく。PDCA は企業での仕事の基本であり、企業から専門学校に期待する人材でも PDCA を理

	解していることが挙げられる。 ・職業実践専門課程でも同様に、PDCA をまわす教育計画をとおして、学生が無意識のうちに PDCA を実体験することで、社会人になってからも習慣的に PDCA を回した仕事ができるようになる。 ・「教育課程編成委員会」でも ID による学習の目標、カリキュラムだと企業の委員にも理解してもらいやすい。 ・企業側から「欲しい人材」＝「目標」を提示してもらい、それを ID の手法で授業に落とし込む。 ・ID の目標が学生の企業へ提出するポートフォリオにもなる。 ④成果物について ［事前］・e ラーニング（4 時間）／課題作成と提出（5 時間） ［研修］・集合研修（12 時間） ［事後］・ID 活用アンケート（4 時間）／事後検討会　・・・合計 30 時間 ・実証講座 2 日間（12 月 18 日 19 日） 11 月中旬以降に全国の専門学校へ案内予定 ３）アクティブラーニング分科会　概要説明と進捗報告（伊藤より） ①これまでの分科会の内容【資料 3 参照】 ・新学習指導について ・反転授業について 反転授業の構成は学習内容の説明→問題演習→確認テストによる振り返りとなっており、授業の中で小さな PDCA を回している。 ID が理論だとすると、AL は実践である。 ・実験的授業の効果について ID と同様、企業に入ってからするべきことを教育に導入することで、実際に働く際、自ら学習する、かつ学習する組織をつくる人材を育成する ・AL を導入した授業の動画を以降の委員会で公開する。

	３）質疑応答 ・成果物を求める際、AL の定義はおおまかであるため、どう目的を設定するか。この事業で AL の定義をある程度定めることができるのではないか。⇒要検討 ・ID や AL でなく PDCA そのものの研究と捉えられるのではないか。 ⇒PDCA そのものを教え込むのではなく、PDCA に則った授業開発と授業の進め方をすることで、授業を受けた学生が即座に組織の中で動ける（PDCA を理解している、ディスカッションができる）人材となることが狙い。そのための研修のツールとして ID・AL を用いる。 ⇒PDCA を「教材」として、ID によるプログラム開発、AL の手法を使った本論を構成することで、汎用的にどの分野にも適応した授業となる。職業実践専門課程との主題にも合致し、なおかつ出口（企業）の理解も深められるのではないか。 ⇒来年のテーマとして次回分科会にて検討。 ・AL の成果物は何か　⇒　教員研修マニュアル、教員向け教材 ・教員自体が AL を体験したことがないために、現行の授業に AL を組み込めるのか、馴染むのか見当がつかない。 ⇒小林委員の事例では高校で行われている物理の受験授業（一般的な座学）を、AL で確立している。その為にはどのような手法ですればよいのかというところ示し、当研修で教員自体が体験教育理論を体験することで、AL 導入への疑問や不安を取り除く。 ４）今後のスケジュール【資料 4】 ・実証講座に実証・開発委員、評価委員も可能であれば参加する。 ５）閉会
資料	１．　第 2 回 ID 分科会　議事録 ２．職業実践専門課程とＩＤの関係 ３．第１回 AL 分科会　議事録 ４．日程表

以上